



第18回全国女性交流集会（静岡県熱海市）



No. 402

編集発行人 針谷宏一
治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟

〒113-0034 東京都
文京区湯島2-4-4
平和と労働センター・全労連会館

電話 03(5842)6461
FAX 03(5842)6462
http://www17.plala.or.jp/chian
定価 50円

同盟要求の前進で 新しい年を迎えよう

主な記事

大会後初の三役会議	2
第十八回全国女性交流集会開く	3
弔辞 故中西会長の遺志を継いで	4
同盟歌壇 / 碓田のぼる選	5
時の焦点 / 「大連立」	5
同盟回顧 2007年	6
	7

今年はいつに波乱に満ちた年でした。

参院選における自公政権与党の歴史的敗北、改憲・戦後レ
ジームからの脱却を呼号した安倍前総理の政権放り出し、こ
の自公政権と「大連立」をたくらんだ民主党小沢代表の醜態
きわまるドタバタ劇

しかしこの波乱の底には、政治を変えたい国民の深部の力
があり、真の革新勢力の奮闘いかんによつては、新しい未来
を開く可能性を秘めています。

来年は、一九六八年に同盟が創立されて四〇周年。また多
喜一虐殺七五周年、三・一五大弾圧八〇周年という節目の年
でもあります。同盟は今年も国会請願行動はじめ全国大会、
九ブロック会議、全国女性交流集会をそれぞれ成功させまし
た。今日、同盟の要求にもとづく運動と存在意義はますます
たかまっています。

アメリカ力追随、国民に背を向ける福田内閣の「ゆきづまり
解散・総選挙」が早晚行われます。同盟の独自課題をしつか
り追求しつつ、同盟要求の支持勢力を前進させましよう。

今年も残りわずか。新しい年、同盟創立四〇周年の節目の
年を意気高く迎えましよう。

大会後初の同盟三役会議 大会後の新体制など確認

十一月二日午後開かれた三役会議は、中西三洋会長の死去を受けて、会長人事について検討しましたが、当面は神戸照会長代行を始め現三役体制で運営することとし、会長人事は然るべき時期に検討することになりました。

さらに、大会後の本部専門部体制の確認、創立四〇周年事業実行

委員会の設立(十一月十五日に第一回実行委員会を開き、記念行事は来年四月十三日に開催することを決めました。)

また、全国大会とブロック会議の成功を力に、年末課題をはじめ同盟創立四〇周年の年にふさわしい署名、会員拡大の成功をめざし奮闘することを確認しました。

日本共産党本部を訪問

中央本部は、十一月二日午前、



神戸照会長代行はじめ役員ら十一名で日本共産党中央委員会を訪問。党側から緒方靖夫副委員長、和泉重行幹事長、柳沢法対部長らが出席し親しく懇談しました。

女性の力はこうも輝くものであるか — と思い知らされる実践を交流

第18回全国女性交流集会

第十八回全国女性交流集会が十一月十一、十二日の二日間、熱海市のホテル池田で開かれ、二六都道府県から七〇人が参加。八〇歳代の治安維持法犠牲者と子供づれの若い母親や青年、学生も参加した活気あふれる集会になりました。

集会は、和歌山県の引地延子さんと増本一彦副会長が開会あいさつ。針谷宏一事務局長が、当面の

活動方針を提起、「来年は同盟創立四〇周年、国民の運動が政治を動かす新しい情勢にふさわしい攻勢的なとりくみを」とよびかけました。

犠牲者の証言は市吉澄枝さん、遺族の発言では静岡県の見機久礼さんが父・宮崎巖は治安維持法で三回投獄、三人の子育てと活動に奔走する母・公子について証言。

吉岡吉典元参院議員が「治安維持法犠牲者の運動の歴史的、国際的意義を明らかにし、その名誉回復と顕彰の運動を拡げ、21世紀の平和と進歩の力に」と題して記念講演。夜は、夕食交流会をおこないました。

二日目は、四つの分散会に分かれて討論の後、全体会で溝渕政子女性部長が、「いま、新しい政治を求める大きな流れが起こっています。政治を国民の手にとりもどす運動を進展させましょう」と、討論のまとめと閉会挨拶をおこな

いました。



今年の女性交流集会 講師の吉岡吉典さんは、「同盟の運動で治安維持法犠牲者が平和・民主主義の戦士と称される情勢をつくりだそう。そのことは二十一世紀を『戦争のない世界』が実現する力になる」と訴えられた。生命を生み出す女性

は、生命を奪つ戦争を「本能的にも拒否 するから大丈夫か。集会での女性のパワーはずばらしい。治安維持法「被告」の女性比率は7・85%というが、命を賭して戦争に反対した女性のたまたかいても万人の心を打ってやまない。「私の活動の原点は、数年前に犠牲者とお風呂を共にして拷問の煙草の跡を見た時から」と、今年も若い大学生を誘って参加した女性もいた。治安維持法犠牲者家族の物語「母へえ」をつくつた山田洋次監督は、「いま語り残しておかねばいけない。それは僕たち世代の責務」と語っている。戦前、特高警察に虫けらのように踏みじられた犠牲者の体験を「世に広める活動は同盟の責務」と決意を新たにしている。(池)

戦時下にもあった学生運動 市吉澄枝(84)



戦争末期兄の影響で社会主義を勉強し、治安維持法違反で千葉警察に逮捕。空襲で留置場が焼かれ、皆仮釈放されましたが、21歳の私は焼夷弾の中を特高と逃げまどいました。昭和十三年末の南京陥落の提灯行列には兄がいた東京帝大では教職員学生四千人が祝賀大行進の記録もあります。

そんな中、荒木文相が総長の官選を通告してきたことから、経済学部を中心に密かに反ファッショ、学問の自由を守る運動があった。高校別出身の会合が組織され、官選教授反対署名を集めて教授会を激励。荒木文相の河合栄治郎教授の罷免要求に対して、平賀総長が提案した右翼の土方成美教授グループも同時に罷免する肅字案に賛成署名を集め、右翼教授団の追い出しに成功した。

しかし、昭和十五年、社会人になった一人の逮捕から当局の知られ、六八名が検挙されました。制つくりと指摘。開戦時の昭和十六年には千人以上の共産主義者を検挙しています。

アジア解放というがサンフランシスコ講和会議で「日本のため、四百万人以上の人命を失った」(インドネシア)などと各国が告発しています。

侵略戦争に反対し平和と民主主義のために闘った治安維持法犠牲者は、ヨーロッパのレジスタンスの戦士と同じ、第二次世界大戦における、反ファシズム・反軍国主義の戦士。国際的なたたかいの一翼を担ったものと指摘。

この闘いに多数の女性が参加し、憲法の女性参政権の基礎を築いたと力説しました。

日弁連は、「治安維持法犠牲者は、日本軍国主義に抵抗し、戦争に反対したものとして、日本国憲法の基本原則からすれば、その行為は高く評価されなければならぬ。この被害者が受けた当時の法律からしても違法となる行為については、日本国憲法の国家賠償規定からすれば、当然保障されなければならぬ」と強調しました。

戦後、治安維持法的反共主義と「アメリカ的反共主義」が結合し共産党弾圧とレッドパージを強行。同盟の運動も、平和と社会進歩、国民の生活と権利のために弾圧を恐れず勇敢に闘ったその意義に力点を入れ、「女性の感覚を生かし活発な活動を期待します」と述べました。

まとめ

女性部長 溝口政子



今年も、秋田から坊やを連れて、岐阜、高知からは青年が参加。今、新しい政治を求め大きな流れが起こっています。政治の改革者としての役割が重要な時はありません。今年の母親大会は、平和分科会に二十人が参加。東京の犠牲者遺族の四津谷伸子さんが発言。会場でパンフを配り、署名を集め、横断幕を持ってパレ

ードに参加し、アピールしました。来年は愛知県、がんばりましょう。各県で実情に応じた多様な運動が発展。鳥根県女性部が五周年目で「歴史に学んであしたへ」という冊子を発行、各県はこれを学びましょう。コンサートなど優しく柔らかい文化活動など、女性の力はこつも輝くものであるかと思ひ知らされる実践です。

来年三月十五日は創立四十周年。顕彰運動、五十万署名、会員拡大で、「これだけはやる」目標を決めてとりくみ、再来年の20回交流会をみんなの手で作ります。

治安維持法犠牲者を平和と民主主義の戦士と称える国に 元参院議員 吉岡吉典



参院選の結果、安倍首相が退陣。彼らはアジア解放

の戦争と正当化。しかし、明治以来の戦争は、すべて侵略戦争。戦争に反対する運動と勢力を弾圧したのが治安維持法。3・15、4・16事件は十五年戦争への国内体

制つくりと指摘。開戦時の昭和十六年には千人以上の共産主義者を検挙しています。

アジア解放というがサンフランシスコ講和会議で「日本のため、四百万人以上の人命を失った」(インドネシア)などと各国が告発しています。

侵略戦争に反対し平和と民主主義のために闘った治安維持法犠牲者は、ヨーロッパのレジスタンスの戦士と同じ、第二次世界大戦における、反ファシズム・反軍国主義の戦士。国際的なたたかいの一翼を担ったものと指摘。

この闘いに多数の女性が参加し、憲法の女性参政権の基礎を築いたと力説しました。

日弁連は、「治安維持法犠牲者は、日本軍国主義に抵抗し、戦争に反対したものとして、日本国憲法の基本原則からすれば、その行為は高く評価されなければならぬ。この被害者が受けた当時の法律からしても違法となる行為については、日本国憲法の国家賠償規定からすれば、当然保障されなければならぬ」と強調しました。

戦後、治安維持法的反共主義と「アメリカ的反共主義」が結合し共産党弾圧とレッドパージを強行。同盟の運動も、平和と社会進歩、国民の生活と権利のために弾圧を恐れず勇敢に闘ったその意義に力点を入れ、「女性の感覚を生かし活発な活動を期待します」と述べました。

まとめ

女性部長 溝口政子



今年も、秋田から坊やを連れて、岐阜、高知からは青年が参加。今、新しい政治を求め大きな流れが起こっています。政治の改革者としての役割が重要な時はありません。今年の母親大会は、平和分科会に二十人が参加。東京の犠牲者遺族の四津谷伸子さんが発言。会場でパンフを配り、署名を集め、横断幕を持ってパレ

ードに参加し、アピールしました。来年は愛知県、がんばりましょう。各県で実情に応じた多様な運動が発展。鳥根県女性部が五周年目で「歴史に学んであしたへ」という冊子を発行、各県はこれを学びましょう。コンサートなど優しく柔らかい文化活動など、女性の力はこつも輝くものであるかと思ひ知らされる実践です。

来年三月十五日は創立四十周年。顕彰運動、五十万署名、会員拡大で、「これだけはやる」目標を決めてとりくみ、再来年の20回交流会をみんなの手で作ります。

弔辞

中西三洋さんの遺志を継いで

治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟中西三洋会長の逝去の訃報に接し、治安維持法同盟会員一同は、同盟の大黒柱を喪い深い悲しみにくれています。

亡くなる二日前、同盟都本部の山崎副会長と松井事務局長と二人でお見舞いにお伺いしたとき、お話しできず眠っておられた、あなたのお顔を見たのが最後になるとは残念でたまりません。

あなたの気力で必ず回復されるものと信じて帰りました。こんなに早く永久の別れになるとは信じられません。

中西会長は、治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟の創立以来、長年にわたり東京都本部と中央本部の役員を務められ、一九九七年より中央本部の会長として、全力を尽くして同盟運動の前進と組織強化のため奮闘され指導されました。

本年九月の第三十三回全国大会には直前までご出席の予定と伺っておりませんが、体調を崩されお姿が見えずたいへん残念でした。大会代議員一同は中西会長の一日も早い回復を心より願っております。

治安維持法同盟は、来年三月十五日、創立四十周年を迎え、記念事業も予定されています。中西会長にご参加いただけないのが残念でなりません。

中西さんは、早くからお兄さんの中西功さん等の影響を受け、社会変革の志をもち、上京されるとすぐ予定の行動とばかりに学校を中退され、町工場に就職し、労働運動、社会変革の道に邁進され、弾圧に抗して不屈に闘われました。

東京大空襲のとき、中西さんは獄中におられた時のお話で、一般受刑者は獄から出され避難させたが、中西さんたちは避難させず獄

舎に放置され、思想犯は「獄中で焼死してもかまわない」という、非道な扱いを受けたお話しに、天皇制権力の人権無視の暴挙、苛酷な拷問などと合わせ、激しい怒りが込み上げてきたことを思い出します。



2003年、第31回同盟全国大会懇親会にて

治安維持法が世紀の悪法として廃止され、刑務所から政治犯の釈放で出獄された時、多勢の人と赤旗が林立する中で出迎えをうけたときの感激を話される中西さんの顔、誇りと確信に満ちた興奮気味に話された姿が懐かしく思い出されます。

中西さんは、犠牲者の数少ない生存者のお一人として、「治安維持法犠牲者九条の会」を立上げ、戦争と暗黒政治の生き証人として憲法を守る運動の先頭に立つて奮闘されました。

中西さん、参院選後の情勢は、

国民の世論と運動で政治を変え要求実現の可能性が高まっています。私たちの国賠署名でも紹介議員になることを党議で縛り、背を向けてきた自公勢力が大敗し、紹介議員の増加や国賠要求実現の可能性と展望が開けてきました。

中西さんが生涯をかけてこれらた同盟の「再び戦争と暗黒政治を許さない」ために、私たちは、あなたのご遺志を継いで全力をつくすことをお誓いいたします。

中西さん、あの大空から、私たちの同盟運動を見守ってください。長い間ご指導ありがとございます。安らかに眠りください。

二〇〇七年 十月三十日

治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟 副会長 宮田 勝

同盟歌壇

碓田のぼる選

宮城県 天水 貞照
色あせてこぶしふりあく安倍ボスター 自民政治を示すことくに
〈評〉 無責任首相の辞任劇あり、この政権の末期症状の如きボスター。

東京都 鈴木すみ江
闘病の夫に薬石の効あれと金木犀かおる坂登りゆく
〈評〉 さわやかに金木犀は香るのに夫は病む。祈りをこめて歌う。

新潟県 加茂川ハル子
鳶からまる杉の木立はうつ蒼と五重の塔を守りて聳ゆ
〈評〉 杉の木立に託した、古い文化財の塔への作者の敬虔な姿。

静岡県 江川 佐一
同盟のブロック会議の出発日妻よ起きよと雀鳴き来る
〈評〉 ユーモアを感じさせる表現で、妻へのいとしみをこめる。

東京都 若林 義文
代表の器ではなし恥らいつも大連合はいつか来し道
〈評〉 作品末に「翼賛化」と。戦前の大政翼賛会への回帰の気配つく。

岐阜県 和田 昌三
「不届」紙を通して知りたる友の居て酒酌み交す交流集会
〈評〉 名前だけ知っていた人達と会って親睦を深める様子である。

和歌山県 中平 喜祥
十二月八日私は何をしてたか忘れてならぬ日を思いおり
〈評〉 その日の自分をたしかめることは戦争の真実を忘れぬこと。

東京都 山崎 元
バングラへ世界のサンタつどわれよパンと菓の袋背負いて
〈評〉 飢えと病気に苦しむ子どもたちによせる作者の切実な思い。

参議院選挙。民主党が独り勝ち

し日本共産党や社民党が議席を減らす一方、自公政権与党の大敗という複雑な結果。それは自公政治を変えてほしいとの民意の現れで、国民主権の発動、戦後民主主義のよみがえりと映りました。

そこへ降つて湧いたのが「大連立」。「連立」とは複数政党による政権担当、とかく「合同」などと混同されがちですが、「合同」の方はそれぞれ旧政党が解体して、新政党に一体化することを意味します。

焦点の時

いまでも自公政権は連立政権ですが、いわば「小連立」、「大」がつくのは議会第一党と第二党との連立の場合で、与党が巨大化し独裁政権が可能となります。

ひとまず破局しましたが、福田・小沢の両者は密談で、大連立の条件として、国連決定に限つての海外派兵、その恒久法づくりに合意しています。テロ特措法の期限切れを前に、ほかに消費税大幅引上げを加えた当面の政治的打開策でしたが、警戒すべきは、大連立の

大連立

最大目標が憲法改悪に照準を合わせていることです。今回の密室会谈の仕掛け人は、読売の渡辺恒雄と元首相の森喜朗の二人。その二人と親しい間柄の中曽根康弘元首相が、すでに参議院選挙直後に、自公大敗の結果、改憲が遠のくのを恐れて、「大連立も選択肢の一つ」と明言していました。

今日、大連立の実例をドイツに見ることができません。ドイツでは二年前に、第一党のキリスト教民主社会同盟と第二党の社会民主党の大連立が生まれています。保革二大政党内による大連立。連邦議会の七〇%を占めて、アフガンへの国際支援部隊参加一年延期や、日本の消費税に当たる付加価値税を一六%から一九%への引上げを強行しています。連立政権による行政の中毒化に反発して、社民党員十五万人が旧東独時代の共産党の流れの「左派党」に合流する事態も生まれていて、二〇〇九年予定の総選挙とその前哨戦の来年一月の主な州議会選挙の動向が注目されています。

(二元)

同盟回顧 二〇〇七年

- 2006年12月1日 九条世界会議第二回相談会
- 12月2日 婦人団体連合会総会
- 12月4日 国際女性デー第一回実行委員会
- 12月7日 中央三役会議
- 12月8日 12・8国民集会
- 12月9日 日本国際法律家協会総会
- 12月15日 教育基本法改悪の強行採決に抗議
- 12月16日 古川苞生誕一〇〇周年宴と集会
- 12月23日 葛飾ヒラ弾圧二周年記念勝利集会
- 1月23日 新春中央全国理事会
- 1月26日 女性の憲法年連絡会新年の集い
- 1月29日 「九条世界会議」実行委員会
- 2月7日 安保放棄実行委員会幹事会
- 2月14日 規約検討委員会
- 2月15日 国際人権活動日本委員会代表者会議
- 2月15日 中央組織・財政部会議
- 2月16日 杉並・渋谷・中野多言一祭
- 2月19日 3・18実行委員会
- 2月22日 安保放棄実行委員会代表者会議
- 2月23日 東京女性部「春を呼ぶつどい」
- 3月1日 日本国際法律家協会理事会
- 3月3日 憲法会議第42回総会
- 3月8日 国際女性デー中央大会
- 3月10日 3・10演説会(明治公園)
- 3月18日 解放運動犠牲者合葬追悼会
- 3月19日 中央三役会議
- 3月20日 中央常任理事会
- 3月20日 「改憲手続法を許すな」決議を公表
- 中央常任理事会
- 3月30日 9条世界会議第二回実行委員会
- 3月29日 葛飾ヒラ弾圧東京高裁要請行動
- 4月9日 拷問禁止条約政府報告に関して外務

- 行委員会
- 6月26日 葛飾ヒラ弾圧高裁公判
- 7月9日 日本国際法律家協会理事会
- 7月17日 中央本部、国際部
- 7月26日 中央三役会議
- 7月27日 中央常任理事会
- 7月27日 9条世界会議実行委員会
- 8月3日 国際人権活動日本委員会代表者会議
- 8月4・5日 日本国民救援会中央委員会
- 8月5日 言論弾圧四事件勝利をめざす全国活動者会議
- 8月6日 宮本顕治さん葬儀参列
- 8月10日 婦団連「戦争はゴメン女性のつどい」
- 8月17日 日本国際法律家協会理事会
- 8月20日 「九条世界会議」成功のための法律家・市民集会
- 8月20日 レッド・パージと戦後の労働運動研究学習会
- 8月23日 中央三役会議 映画「母べえ」先行特別試写会
- 8月25日 日本母親大会パレード
- 8月26日 日本母親大会「平和と民主主義」集会
- 9月4日 日本国際法律家協会理事会
- 9月11日 中央三役会議 葛飾ヒラ弾圧事件東



国内外の動き

- 06年12月1日 中国「残留孤児」訴訟で国の責任認める
- 12月15日 教育基本法改悪、自公が強行採決し成立。
- 12月21日 臨時国会閉幕
- 1月17日 米上院が超党派でイラク増派反対決議案提出すると発表
- 1月19日 石川島播磨重工業が思想差別を反省、再発防止を約束
- 1月25日 通常国会開幕、安倍首相が憲法改悪、消費税増税を明言
- 2月1日 「九条の会」6000を超す
- 2月6日 最高裁で在外被爆者の勝訴確定
- 3月9日 東京大空襲の被害者が集団提訴
- 3月23日 薬害C型肝炎訴訟で国と製薬会社に賠償責任の判決
- 3月25日 英奴隷貿易廃止200年でブレア首相が「深い悲しみと遺憾」を表明
- 4月11・13日 温家宝中国首相来日。13日、会見手続き法案が自民・公明の賛成多数で衆院通過
- 4月17日 伊藤一長長崎市長、暴力団幹部に銃撃され、翌未明死亡
- 4月22日 一斉地方選後半戦投票、共産党議席占有率をのばす
- 4月25日 香港議会が日本に侵略戦争で被害を受けた中国人に個人賠償を求める決議
- 5月3日 憲法施行60年記念で集会・デモ
- 5月23日 在日米軍再編促進法案、自・公が強行採決、成立
- 6月1日 松岡農水相が「政治とカネ」疑惑で自殺
- 6月6日 自衛隊情報保全隊が国民監視活動、共産党が公表。14日、抗議集会
- 6月14日 憲法改悪反対労組連絡会が9条守る一千万署名へ集会

省と意見交換

- 4月11日 日本国際法律家協会理事会
- 4月13日 「改憲手続き法」単独強行採決に抗議
- 4月20日 拷問禁止条約政府報告に関する関係省庁との意見交換
- 5月1日 M-1デー参加、署名行動
- 5月3日 憲法集会(日比谷公会堂)
- 5月12日 全国革新懇27回総会
- 5月14日 中央女性部会議
- 5月15日 国会請願行動
- 5月16日 中央三役会議

- 5月16日 長勢甚遠法務大臣への要請
- 5月16日 九条世界会議実行委員会
- 6月7日 日本国際法律家協会理事会
- 6月9日 婦団連幹事会
- 6月9日 「九条の会」全国学習会
- 6月9日 あかしゃ法律事務所創立三周年の集い
- 6月10日 中西会長を見舞い訪問



同盟代表団に要請する長勢法務大臣

- 6月12日 国際人権活動日本委員会代表者会議
- 6月14日 自衛隊に上る違憲・違法な国民監視活動についての報告抗議集会
- 6月19日 中央三役会議
- 6月19日 亀戸事件第一回実

京高裁傍聴

- 9月12日 中央常任理事会
- 9月12日 第33回全国大会
- 9月13日 中央三役会議
- 9月20日 九州・沖縄ブロック会議
- 9月21日 国際人権活動日本委員会代表者会議
- 9月21日 テロ特措法延長阻止全国代表者会議
- 9月25日 中国ブロック会議
- 9月26日 北海道ブロック会議、北信越ブロック会議、近畿ブロック会議
- 9月30日 中央顧問渡辺タケさん通夜
- 10月2日 東北ブロック会議
- 10月5日 中国、平和・連帯の旅
- 10月6日 四国ブロック会議
- 10月14日 関東ブロック会議
- 10月16日 東海ブロック会議
- 10月18日 国際人権活動日本委員会代表者会議
- 10月27日 中央本部会長中西三洋さん死去
- 10月29日 中央顧問宮本太郎さん死去
- 11月2日 新三役が日本共産党本部訪問。中央三役会議
- 11月5日 中日友好協会代表団歓迎レセプション
- 11月8日 日本国際法律家協会理事会
- 11月9日 葛飾ピラ弾圧事件公判報告集会
- 11月11日 第18回全国女性交流集会
- 11月11日 国際人権活動日本委員会総会
- 11月13日 新テロ特措法案強行採決に抗議
- 11月15日 レッド・パージ第4回総会参加。同盟創立40周年記念事業実行委員会
- 11月20日 9条世界会議実行委員会
- 11月21日 国際人権活動日本委員会代表者会議
- 11月24日 桑原英武名誉会長出版記念

6月28日 「集団自決」検定撤回を求め沖縄県全議会議が意見書

7月3日 久間防衛相が「原爆投下しようがない」と発言、抗議の中辞任
7月11日 沖縄県議会、「集団自決」への軍関与の記述回復を求める意見書再び可決
7月10日 北九州の男性が生活保護打ち切れ死亡、自宅でミイラ化状態で発見

7月18日 共産党宮本顕治元議長が死去
7月16日 新潟・長野で震度6強、中越沖地震
7月29日 参院選で自民・公明大敗。共産党志位委員長が「大きな前向き」のプロセスが始まった」と語る

8月1日 赤城農水相が事務所費疑惑で辞任
8月3日 原水爆禁止世界大会国際会議始まる
8月25日 日本母親大会、5550人

8月27日 安倍改造内閣発足
9月3日 遠藤農水相、阪本外務政務官、金銭疑惑で辞任、玉沢元農水相が政治活動費多重計上で離党

9月12日 安倍首相、所信表明演説直前にテロ特措法延長問題で辞職、「無責任」「前代未聞」の批判広がる
9月23日 自民総裁選で福田康夫元官房長官を選出

9月27日 「北朝鮮」6カ国協議再開
9月27日 ミヤンマーでテモ弾圧、日本人カメラマン長井健司さん銃撃され死亡

9月29日 沖縄戦「集団自決」で教科書から軍関与の記述削除に抗議する県民大会11万6000人
10月28日 新テロ特措法阻止、ストップ改憲、許すな消費税増税など「10・28国民大集会」(亀戸・中央公園)に4万2000人

10月29日 守屋前防衛事務次官が証人喚問
11月2日 福田首相が小沢一郎民主党代表に連立を打診

11月7日 「大連立」構想の混乱で辞意表明した民主党小沢一郎代表辞意撤回
11月13日 新テロ特措法案衆院通過

11月14日 16日 韓国・北朝鮮両首相が会談

年末に向け財政活動の強化を訴えます

今年の第三回全国大会は、旺盛な同盟活動を支えるために財政活動に力を入れることが強調され、県本部への還元金を増やす処置などを決めました。一方、中央財政は節約の努力にもかかわらず、今年には全国大会の開催もあつて支出が増大。年末に向けて財政活動強化が切実に求められています。そのために

第一に、同盟の拡大強化の活動と結んで長期未納者にも働きかけ会費納入を前進させましょう。また、賛助会費を積極的に集めましょう。

第二に、同盟活動への理解者も増えています。同盟内外に訴えて一千五百万円年末募金運動の目標を達成して中央納入(同盟員一人当たり中央納入三三〇円規模)を確保しましょう。

第三に、「不屈」新年号掲載の名刺広告は締め切りました。今年から県還元五百円増、中央納入二千五百円。代金を一〇〇%回収し、早めに完納しましょう。

第四に、『治安維持法と現代』14号から県還元も二五〇円になりました。読者を増やして代金も一〇〇%回収しましょう。

第五に、来年一月二十六日から映画「母べえ」のロードショー・特別鑑賞券(県還元金一〇〇円)の普及に取り組みしましょう。

訃報

同盟中央本部顧問 宮本太郎さんが逝去

一〇月二十九日、慢性呼吸不全のため逝去されました。九十七歳。生前のご貢献に深謝し、謹んでお悔やみ申し上げます。

〈寄贈図書〉

『不屈の人々』社会進歩をめざし

た庄内の先覚者たち

同盟山形県鶴岡田川支部

領価 一五〇〇円

『秋田・反骨の肖像』

工藤一紘著 イズミヤ出版刊

定価 一六八〇円

事務局日誌

11月2日 新三役日本共産党本部

を訪問、党三役と懇談

2日 同盟三役会議

11月5日 中日友好協会代表団

歓迎レセプション

11月8日 日本国際法律家協会

理事会

11月9日 葛飾ピラ弾圧事件公

判報告集会

11月11日 第18回全国女性

交流集会

11月11日 国際人権活動日本委

員会総会参加

11月13日 新テロ特措法案強行

採決に抗議

11月14日 「不屈」編集会議

11月15日 同盟創立四〇周年記

念事業実行委員会

15日 レットページ第4回

総会参加

11月20日 9条世界会議実行委

員会

11月21日 国際人権活動日本委

員会代表者会議

11月24日 桑原英武名誉会長出

版記念

2007年
秋季号

『治安維持法と現代』

好評発売中



【主な内容】「参院選後の情勢と今後の展望」= 畑田重夫、「日本会議「靖国派」のルーツは特高官僚・戦犯政治家・右翼思想家」= 柳河瀬精、「自衛隊の国民監視を許すな」= 内藤功、「南京大虐殺70周年に思う」= 伊藤敬一、「岩田義道の不屈の生涯に学ぶ」= 水野晃治、「少年の私が見た横浜事件」= 宮本顕治、「世界に誇るべき革命家」= 山崎元、「大企業思想差別・反共労務政策とレッドページ」= 神戸照、「気骨の作家・社会運動家中西伊之助」= 水谷修、詩 = 窪島誠一郎など、学習材料が満載。A5版、定価1000円、送料210円、各都道府県本部でお求めを。

治安維持法と現代を結ぶ総合雑誌

企画・編集 治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟